

セッション名	セッションテーマ	演題名	氏名
理事長・会長講演	煌めく神経治療学の明日を目指して	煌めく神経治療学の明日を目指して	桑原 聡
教育講演 1	大規模リアルワールドデータ：臨床研究のブルーオーシャン	大規模リアルワールドデータ：臨床研究のブルーオーシャン	小西 孝明
教育講演 3	新薬の薬価はどう決まる？	新薬の薬価はどう決まる？	荻野 美恵子
教育講演 4	脳神経内科医が知っておきたいステロイドの使い方	脳神経内科医が知っておきたいステロイドの使い方	鶴沢 顕之
教育講演 5	COVID-19 後遺症としての認知機能障害 —その病態と対策—	COVID-19 後遺症としての認知機能障害 —その病態と対策—	下畑 享良
教育講演 6	臨床神経学の理解に必要な運動制御機構「姿勢と歩行」	臨床神経学の理解に必要な運動制御機構「姿勢と歩行」	高草木 薫
教育講演 7	認知症予防を目指した多因子介入研究 (J-MINT) の成果と今後の展望	認知症予防を目指した多因子介入研究 (J-MINT) の成果と今後の展望	櫻井 孝
教育講演 8	アミロイドβタンパク質病理の伝播とアルツハイマー病の治療戦略	アミロイドβタンパク質病理の伝播とアルツハイマー病の治療戦略	瀧口 毅
教育講演 9	レビー小体病の幻覚：病態と治療	レビー小体病の幻覚：病態と治療	西尾 慶之
教育講演 10	aPD（進行期パーキンソン病）の治療戦略	aPD（進行期パーキンソン病）の治療戦略	西川 典子
教育講演 11	パーキンソン病の漢方治療	パーキンソン病の漢方治療	村松 慎一
教育講演 12	自己免疫介在性脳炎・脳症の最前線	自己免疫介在性脳炎・脳症の最前線	河内 泉
教育講演 13	免疫異常による自律神経障害	免疫異常による自律神経障害	中根 俊成
教育講演 14	皮膚所見を伴わない炎症性筋疾患 Up to date	皮膚所見を伴わない炎症性筋疾患 Up to date	清水 潤
教育講演 15	前頭側頭葉変性症の非薬物療法	前頭側頭葉変性症の非薬物療法	小林 良太
マラソンレクチャー1	自分流てんかんとは？	自分流てんかんとは？	宇川 義一
マラソンレクチャー2	パーキンソン病治療の長期計画	パーキンソン病治療の長期計画	斉木 臣二
マラソンレクチャー4	神経診断学を極める—自著症例報告を深掘りする—	神経診断学を極める—自著症例報告を深掘りする—	福武 敏夫
マラソンレクチャー5	診療に役立つ遺伝学的検査の基礎知識	診療に役立つ遺伝学的検査の基礎知識	中村 勝哉
マラソンレクチャー6	小児神経筋疾患患者の診察	小児神経筋疾患患者の診察	石垣 景子
マラソンレクチャー7	特発性後天性全身性無汗症の診断と治療	特発性後天性全身性無汗症の診断と治療	荒木 信之
マラソンレクチャー8	脳卒中薬物治療の最前線	脳卒中薬物治療の最前線	藤本 茂
マラソンレクチャー9	ビタミン欠乏性神経疾患の診断と治療	ビタミン欠乏性神経疾患の診断と治療	平賀 陽之
マラソンレクチャー10	アルツハイマー病疾患修飾治療に必要な知識	アルツハイマー病疾患修飾治療に必要な知識	小野 賢二郎
マラソンレクチャー11	MS・NMOSD・MOGADの鑑別診断と治療	MS・NMOSD・MOGADの鑑別診断と治療	磯部 紀子
マラソンレクチャー12	Common diseaseとしての末梢神経疾患	Common diseaseとしての末梢神経疾患	関口 縁
メディカルスタッフレクチャー1	神経内科医とメディカルスタッフの連携について考える	神経内科医とメディカルスタッフの連携について考える	荻野 美恵子
メディカルスタッフレクチャー2	ブレインナーシング～脳神経疾患の看護	在宅から病院、病院から在宅へ循環型看護を考える—脳卒中患者の在宅生活から学ぶ— 脳神経疾患を抱える人と家族のWell-beingを支える ～看護師の役割と実践～	杉本 智波 小林 由紀恵
メディカルスタッフレクチャー3	パーキンソン病脳深部刺激療法における多職種連携	パーキンソン病脳深部刺激療法における多職種連携	山本 達也
特別講演1	CURRENT CLINICAL TRIAL Designs in ALS: FROM SAD TO PIVOTAL PROGRAMS	CURRENT CLINICAL TRIAL Designs in ALS: FROM SAD TO PIVOTAL PROGRAMS	Angela Genge
特別講演2	ASENT-JSNT Joint Lecture Drug Discovery to First in Human: Hurdles to Development	Drug Discovery to First in Human: Hurdles to Development	Nathan Fountain
特別企画シンポジウム 1	ATTRvアミロイドーシスの治療：産・官・学・患者会の立場から	ステークホルダーが一堂に介して知識を共有する価値 —中間機関の視点から 遺伝性ATTRアミロイドーシス診療の現状と課題 当事者が想うこと、望むこと、および今後の患者会活動について 患者会の歩みの紹介、および関係者連携の重要性 難病対策の変遷と現状、および令和6年改訂の内容について	西村 由希子 植田 光晴 黒田 直子 宮田 誠也 山田 洋輔
特別企画シンポジウム2 (創薬推進委員会シンポジウム)	臨床研究・治験のDXと組み入れ支援	臨床研究のDXに対するARO (Academic Research Organization) の取り組み 治験のDXに対する行政の取り組み 臨床研究・治験のDXと組み入れ支援  ～日本版の治験DX・プラットフォーム・AI・DCTの活用最前線～ 神経治療学会による治験組み入れ支援	小早川 優子 飯村 康夫 猪川 崇輝 勝野 雅央
特別企画シンポジウム3 (PMDA・DIAジョイントシンポジウム)	臨床開発に関わるステイクホルダーとの連携を深める	アカデミアを飛び出すことで広がる世界：DIA Japanでの学びと出会い DIAについてのご紹介と神経治療への期待 年会への招待 臨床開発推進のためのneutral platformを介したステークホルダーの連携：PMDAでの経験を踏まえて DIAにはじめて参加して	三澤 園子 長尾 典明 宇山 佳明 狩野 修
シンポジウム1	レカネマブ時代における認知症領域の新しい臨床開発のチャレンジ	精神神経領域における音声バイオマーカーの開発 認知症領域における血液バイオマーカー最前線	徳野 慎一 中村 昭範
シンポジウム2	神経領域における臨床試験／臨床評価ガイドライン作成の取組み	神経領域における臨床試験／臨床評価ガイドラインの意義・役割 神経領域における国内外の臨床試験／臨床評価ガイドライン 脳梗塞の細胞治療製品の開発に関するガイドラインについて ALS臨床試験のためのガイドライン作成	中島 麗子 佐久嶋 研 七戸 秀夫 狩野 修
シンポジウム3	プリオン病の治験開始に向けて	治験を目的としたプリオン病の診断の問題点とバイオ マーカーの活用 末梢静脈投与可能なプリオン病特効薬の治験開始 プリオン病の治療に必要なドラッグデリバリーシステム	佐藤 克也 桑田 一夫 桑原 宏哉
シンポジウム4	世界で増加するALS治験： 日本のドラッグロス回避と今後の戦略を考える Tofersen development journey and Japanese issues	ALSの国際間での連携 ALS治験、治療開発にレジストリの果たす役割 ALS治験のエンドポイントとバイオマーカー 医薬品開発を効率化するComplex Innovative Trial Designs The development of tofersen for SOD1-ALS and lessons learned for future trial designs in ALS	狩野 修 熱田 直樹 藤田 浩司 平川 晃弘 Steve Garafalo
シンポジウム5	アルツハイマー病診療の最前線 ～レカネマブ治療の現場から～	レカネマブの治療効果をアミロイド仮説から紐解く ARIAの病態と対応について レカネマブ治療外来の診療フローについて 認知症診療におけるアミロイドPETの役割と課題 認知症診療における液性バイオマーカーの役割	小野 賢二郎 富本 秀和 篠原 もえ子 石井 賢二 池内 健

セッション名	セッションテーマ	演題名	氏名
シンポジウム6	パーキンソン病と関連疾患の治療法開発の現状と展望	パーキンソン病の病態抑止療法 update	長谷川 隆文
		パーキンソン病の対症療法update	前田 哲也
		PSPとCBSの病態抑止に必要なこと	金澤 雅人
		多系統萎縮症の病態抑止治療update	三井 純
シンポジウム7	稀少脳神経疾患の治験推進への課題	医療者の立場から考える希少神経難病に対する臨床試験の課題と解決策	中山 東城
		希少神経難病に関する、治験の問題点と解決策 -PMDAの立場から-	朝倉 渡
		希少難病に関する創薬の課題と解決策 -製薬業界の立場から-	小泉 一二三
		稀少神経疾患治験に対する、DCTアプローチ	佐藤 裕
シンポジウム8	神経疾患に対する東洋医学診療の現状と今後の展望 特に漢方と鍼灸の有効性と科学的根拠	神経性疾患の東洋医学の総論	並木 隆雄
		漢方薬の基礎的研究～加味帰脾湯の研究より～	砂川 正隆
		難治性神経疾患に対する東洋医学的治療（漢方薬・鍼灸）からのアプローチ	伊藤 剛
		パーキンソン病など神経難病に対する鍼灸治療	江川 雅人
		頭痛に対する鍼治療の効果と医師施術の意義	黒木 香行
		脳神経内科より鍼治療の診療依頼があった頭痛患者について	井根 真太郎
シンポジウム9	日本の薬価制度：未来を考えた適温は？	くすりの費用対効果評価・価値評価	五十嵐 中
		未来の最適化のために 医薬品の値付けと保険償還（日英その他の国）	吉田 恵美子
		日本の薬価制度：未来を考えた適温は？	荻野 美恵子
		日本の薬価制度～グローバル製薬企業から見える課題	松田 尚人
シンポジウム10	神経免疫疾患のレジストリ研究	神経免疫疾患レジストリ構築の意義と挑戦：CIDPを事例として	大森 茂樹
		視神経脊髄炎スペクトラム障害・MOG抗体関連疾患（NMOSD・MOGAD）レジストリ	竹内 英之
		Japan MG Registryの目的と成果	楡沢 公明
		多発性硬化症のレジストリ研究の現在とこれから	磯部 紀子
シンポジウム11	パーキンソン病のdevice aided therapy	各種デバイス療法の導入時期と適した患者像	樽野 陽亮
		進行期パーキンソン病に対するホスレボドバ・ホスカルビドバ(持続皮下注射法の適応と実践	馬場 徹
		脳深部刺激療法の適応と実践(成功例と困難例)	大山 彦光
		パーキンソン病のdevice aided therapy	武田 篤
シンポジウム12	日本のALS治験、治療開発のさらなる推進のために	日本のALS創薬の現状	漆谷 真
		今後のALS臨床試験を見据えたPatient and Public Involvement（PPI）	狩野 修
		筋萎縮性側索硬化症に関する治験推進のための医療DX・治験DX	佐久嶋 研
		ALS臨床評価ガイドライン作成の目的と概要	和泉 唯信
		遺伝子治療時代への対応（家族性ALSレジストリJ-FAST）	青木 正志
シンポジウム13	新しい時代の自己免疫性小脳失調症の診断・治療	自己免疫性小脳失調症overview	木村 暁夫
		自己免疫性小脳失調症の診断における免疫組織染色の有用性	竹腰 顕
		自己免疫性小脳失調症の治療	清水 文崇
		本邦における自己免疫性小脳失調症の抗体測定体制の確立	矢口 裕章
シンポジウム14	遺伝性脳小血管病研究の新展開	CADASIL診断における皮膚生検の有用性	植田 明彦
		保険診療で遺伝学的検査が可能となった時代の遺伝性脳小血管病の診断	安藤 昭一郎
		CADASILの遺伝子診断から治療法開発へ	水田 依久子
		CADREA: CADASIL Registry in East Asia	齋藤 聡
シンポジウム15	ARIAの発症機序と制御への展望	アミロイド関連画像異常（ARIA）とその周辺病態	伊井 裕一郎
		1型脳小血管病理とCAA・ARIA	薬師寺 祐介
		脳アミロイド血管症の病態	坂井 健二
		アミロイド関連画像異常（ARIA）の病態とMRI解析	工藤 興亮
		アミロイド関連画像異常（ARIA）制御への将来展望	富本 秀和
シンポジウム16	リアルワールドエビデンスはどこまで薬事利用できているのか	RWEの活用の現場、海外の状況について 研究班からの報告や検討も含めて	中村 治雅
		希少難病のドラッグラグ・ドラッグロスの解決に資する基盤を目指して～難病プラットフォームについて～	山野 嘉久
		製薬企業における日本のRWD/RWEの薬事利用について	弘 新太郎
		最近の薬事制度下でのRWD/RWE活用の話題	泉 和樹
シンポジウム17	病態修飾療法の現在と未来	脊髄性筋萎縮症における疾患修飾療法の現在と未来	齋藤 加代子
		筋萎縮性側索硬化症における病態修飾療法の現在と未来	漆谷 真
		アルツハイマー病の病態修飾療法の現在と未来	岩田 淳
		パーキンソン病における病態修飾療法の現在と未来	長谷川 隆文
シンポジウム18	GBS・CIDP 2024UPDATE	GBS・CIDPの疫学UPDATE	水地 智基
		GBSの診断と治療UPDATE	桑原 基
		典型的CIDPの診断と治療UPDATE	古賀 道明
		CIDPバリエーションの診断と治療	国分 則人
		自己免疫性ノドバチーの診断と治療UPDATE	緒方 英紀
シンポジウム19	希望から現実へ：神経変性疾患の先制治療開発	脊髄性筋萎縮症の発症前診断・治療	齋藤 加代子
		筋萎縮性側索硬化症（ALS）に対する治療法開発と発症前治療への展開	和泉 唯信
		遺伝性 ATTR アミロイドーシスの発症前遺伝子診断と治療	中村 勝哉
		遺伝性アルツハイマー病に対する発症前治療：DIAN研究	池内 健
		レビー小体病プロドローマル期の先制治療	平賀 経太
シンポジウム20	パーキンソン病関連疾患のバイオマーカー開発と次世代治療戦略の展望	パーキンソン病関連疾患のミスフォールドタンパクイメーシング	遠藤 浩信
		パーキンソン病ゲノムからの病態解明・臨床応用と展望	佐竹 渉
		パーキンソン病における創薬開発の現状	渡辺 宏久

セッション名	セッションテーマ	演題名	氏名
シンポジウム21	世界の神経疾患コンソーシアムにおける日本の戦略	World Stroke OrganizationとAsia Pacific Stroke Organizationへの日本の貢献	平野 照之
		MS/NMOSD領域における国際的コンソーシアムで何をすべきかー日本のプレゼンスを護るために	中原 仁
		国際パーキンソン病・運動障害学会の活動	波田野 琢
		筋疾患領域における医薬品開発等に資する国際連携	中村 治雅
		重症筋無力症：Japan MG registryとグローバル治験における日本の現状	鶴沢 顕之
		世界のALSコンソーシアムの現状と我が国の関わり	熱田 直樹
シンポジウム22	GNEミオパチー：基礎研究から治療法開発まで	シアル酸補充療法の臨床試験	鈴木 直輝
		画像研究から学ぶ、診断とモニタリングのポイント、及び、治療法開発研究の最新動向	吉岡 和香子
		シアル酸補充療法の開発およびさらなる治療法をめざして	野口 悟
シンポジウム23	神経・筋疾患の新規治療標的候補としてのオートファジー	パーキンソン病に対するオートファジー調節治療について	斉木 臣二
シンポジウム24	神経疾患に対する新薬承認のその後	球脊髄性筋萎縮症に対するリユプロレリン酢酸塩の薬事承認とその後	橋詰 淳
		ATTRアミロイドーシスに対する新薬承認のその後	関島 良樹
		Crow-Fukase症候群	水地 智基
		デュシェンヌ型筋ジストロフィーにおける新薬の有効性・安全性評価	小牧 宏文
シンポジウム25	ガイドライン（標準的神経治療）restless leg症候群	Restless legs syndromeの治療アルゴリズム	宮本 智之
		Restless legs syndromeの薬物療法	野村 哲志
		腎不全とRLS	小池 茂文
		RLS診療ガイドライン エビデンスの少ない領域に対するGRADEアプローチ採用の試み	小島原 典子
シンポジウム26	MG・NMOSDにおける生物学的製剤の使い分けについて考える	NMOSDに対する生物学的製剤の使い分け	中島 一郎
		NMOSDに対する生物学的製剤・ステロイドの安全性を徹底的に比較する	田原 将行
		NMOSDにおける生物学的製剤とステロイドのリスク・ベネフィット	荒木 学
		全身型MGにおける抗補体薬と治療適応となりうる患者像	中根 俊成
		全身型MGにおけるFcRn阻害薬と治療適応となりうる患者像	長根 百合子
		全身型MGにおけるB細胞標的療法	安田 真人
シンポジウム27	治験に向けたALS早期診断法・診断基準	ALS診断基準とその問題点	澁谷 和幹
		核医学検査はALS早期診断に寄与し得るか？	島田 斉
		神経筋超音波検査を用いたALS早期診断	能登 祐一
		経頭蓋磁気刺激検査を用いた ALS 早期診断	東原 真奈
第3回医療ニーズ調査報告	神経疾患における第3回医療ニーズ調査の報告	第3回医療ニーズ調査報告	伊藤 瑞規
第42回日本神経治療学会学術集会 市民公開講座	病を持つ方にとって本当に必要なこと：市民患者参画についての目線合わせ	ともに目指すアンメットニーズの克服 ①医師の立場から	三澤 園子
		ともに目指すアンメットニーズの克服 ②患者・研究者の立場から	猪野毛 朝飛